

前日の準備から晴天に恵まれ、暑さに参ってしまいそうな気候でしたが、役員の方をはじめ、中学生ボランティアも懸命に作業をしていました。今回スタッフとしてお手伝いくださった、明善中学校生徒さんから感想をいただいています。

盛大に開催されました。オープニングでは明善中学校吹奏楽部の皆さんによる演奏と、同じく明善中学校の生徒さん有志による合唱もありました。開会式終了後、各出店が一斉にスタートし、地区内外からの多くの人で賑わいました。

第24回松原いづら祭が、盛大に開催されました。



▲素晴らしい合唱で開幕



▶まつりの準備は大変だ



◀▲にぎわってるね

来年は、明善中学生としては参加できないけれど、自分の住んでいる班のブースの手伝いのできたらいいなと思っています。

(第5町会 岡部 優月)

課題として、もう少し高い声で元気よくできたら良かったということがあげられます。松原住民として、中学を卒業しても手伝いができればいいけれど、なかなか難しいので、中学校3年間連続で手伝いのできたことは本当に良かったと思います。ありがとうございます。

今回は、本場で放送の係をしました。中学校生活、最後のいづら祭での手伝いだったし、落し物の案内や、各ブースの出し物のアナウンスなど、とても大切な手伝いだったので真剣にやることができました。



◀みんなで踊ろう 復活 盆踊り

青山様・ぼんぼん

8月4日・5日

8月4日、5日の両日に青山様・ぼんぼんが行われました。子どもたちは事前の準備から一生懸命に取り組んでいました。

当日は天気心配されましたが、予定通りに出発でき、子どもたちは元気に練り歩いています。

「最後の青山様ぼんぼん」

8月4日、5日の二日間にわたって、青山様ぼんぼんがありました。

一日目は、女子の歌声が小さかったけど、二日目は、大きい声で歌ってくれたので良かったです。いっしょに歌ってくれたお母さんいました。

二日目は、きよりも長かったけど、小さい子も最後までがんばって歩きました。

けがもなく無事に終わって良かったです。

たくさんのおさい銭を入れていただきありがとうございます。

今年の青山様ぼんぼんで、もう最後だから、少しさみしいなと思いました。でも、六年間の全ての青山様ぼんぼんは楽しかったの思い出ができました。わたしはこの行事がずっと続いてほしいと思います。

(第1町会 小池 妃那乃)



▲おしとやかに歌います



▲神輿づくり



▲わっしょい!



▲お札作りで真剣な表情



▲かわいいお花紙がつくれるかな



▲青山大明神のお札



▲きれいにできました

松原地区福祉ひろばが 10周年を迎えました

松原地区福祉ひろばは平成16年9月1日に、町内公民館で活動を始めました。

各地区の福祉ひろばで行われている「ふれあい健康教室」の他にも、「ビーズ講習会」や「手づくりの会」などの事業が当初からの事業として行われています。

その後、男性料理教室(平成17年)、健康マーじゃん(平成18年)、おとこの会(平成24年)などの、男性向けの事業も展開されてきました。



▲フラを楽しむ会



▲カンガルーの会



▲男性料理教室



▲健康マーじゃん



▲ふれ健(ふれあい健康教室)▲



また、平成20年からは「喫茶つばら」がオープンし、毎月、地域の皆さんをはじめとして、寿台養護学校、ろう学校、コムハウスの皆さんにもご利用いただき、高齢の方から親子連れまで幅広い方々の交流の場となっています。町内公民館を使用して活動が始まりましたが、平成22年4月に現在のひろばへと引越しをして、地区公民館と併設になり、さらに多くの方に利用していただいています。



おとこの会制作

この10年間、本当に多くの皆様に支えられ、ここまで来ることができました。特に、裏方として日頃からひろばを支えてくださっているサポーターさん、おとこの会の皆さんには心より感謝しております。今後とも、地域の皆様とともに歩んでいきたいと思っております。

福祉ひろば事業推進協議会
会長 小栗 勝人
ひろば職員一同



▲みんな笑顔(10周年記念作品)

記念式典が行われました



▲記念作品 除幕式



▲記念コンサート(峰ちはるさん)



▲10周年!!

コラム 北の旅人

松本に住んでみて、信州では目新しい食べ物の多いことに驚いた。蜂の子、ざざ虫、さなぎの佃煮、山菜やキノコの類の多いこと、すんき漬けをはじめとする漬物や、氷餅、とち餅などきりがない。締めは百草丸、良くできている。

「そば」も自分にはそのひとつ、関東では更科そばで白くて太めの物が、こちらに来たら戸隠と言って細麺で肌黒のそばが主流でびっくりした。縁あって、そばを打つチャンスに恵まれ、少し調べてみると、タデ科の一年生作物、ソバムギを略したもの。故に「蕎麦」と書くらしい。

原産は中国、日本でも千年以上前から作られ、ク ROMギとも呼ばれ、実が

ながつき
長月
を 鈴虫のすだき鳴くさますごましく
孫たちの休みも終る送り盆
金井哲
黄菊咲く庭に重ねて黄菊かな



三角にとがっていて「岨地(そぼち)」「荒地」で栽培されたことなども語源らしい。古くはそばがきで食べ、湯で溶くだけなので戦場の兵糧の一つでもあったらしい。江戸時代になり、伸ばして切つて茹で「そば切り」と呼ばれ、戸隠で「ぼっち盛り」と言つて五つの山に盛るのは祭神の五柱に捧げるためとのこと。

水廻しから、切る、茹でる。もりそば、かけそば、など歴史があるだけに、それぞれの言葉にも奥の深い謂れを伴う食べ物であることは間違いない。